

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価

## I 自己評価

岐阜県立加納高等学校

学校番号

5

<b>1 学校教育目標</b>	自主自律した個性豊かな生徒を育てる 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道徳観及び倫理観を培う。
-----------------	---

### 【教務部】

<b>2 現状の分析</b>	▲自分の将来像を考え、その実現のために主体的に学習に取り組み始める時期が遅い生徒が多く見られる。 ○生徒、保護者を対象とするアンケート（令和5年7月実施）では、教職員の学習指導への姿勢や、授業内容等への信頼度は高いことが分かる。能力に応じた指導を行っていると感じている生徒は、昨年度より若干減少し73%であるため、引き続き指導方法の工夫が求められている。 ○「地域共創フラッグシップハイスクール(FRH)事業」が終わり「グローバル探究実践(GLI)事業」が始まり、探究的な学習を通して課題の発見とその背景について考察を深め、論理的思考力や課題解決能力など社会に求められる力を育成するための方法の一つとして取り組んでいく。
<b>3 学校の抱える課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャリア支援部と連携を図りながら、生徒の学習習慣の確立とキャリアデザインを進める。</li> <li>● 「本時の目標」の定着を図り、生徒が目的意識をもって授業に臨む習慣を身に付けさせる。</li> <li>● 教科会の充実を図り、「言語活動」「アクティブラーニング」「ICT機器」を取り入れ、深い学びに結びつく授業研究を行う。</li> <li>● 読書指導法の研究を行う。</li> </ul>
<b>4 今年度の具体的な重点目標</b>	◇授業を重視し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。 ◇授業改善への取り組みを推進する。 ◇自ら本を手に取り、意欲的に読書活動を行う生徒を育成する。

### 年 度 目 標

### 年 度 末 評 価

5 評価・項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 評価	
		※外部アンケート(保護者・生徒)※学習時間調査(学)								
		指標	前年	結果						
◇学習指導	(1) 学習時間調査の分析 (2) 生徒による授業評価の分析	学	週当たりの学習時間 21 時間達成率	1年 30%	11%	17%	C	○授業内容については、概ね信頼を得ている。 ▲学習時間の減少がみられる。家庭学習習慣の確立に向け、特に年度途中の指導の工夫を進めたい。	B	
		生	専門的知識が豊富であり、授業内容は信頼できる。	2年 40%	19%	24%				A
		生	本校では、生徒にとって有益であり力になる授業が展開されている。	3年 90%	66%	68%				B
	保		90%	87%	88%	B				
			90%	82%	84%	B				
◇図書指導	(1) 「LHRの時間」を効果的に利用する。 (2) 年間を通した委員会活動を計画する。 (3) 新刊案内や図書館通信の効果的な活用。	生	読書が有意義であった	90%	1年 51%	1年 56%	B	○文化祭参加など委員会活動を活発に実施できた。 ○貸出数：4.7冊/人 ○芸術鑑賞の実施・劇団四季	B	
		生	生徒は、学習習慣とともに読書習慣がついている。(不読者率)	50%	2年 54%	2年 51%				3年 62%
			図書貸出冊数(4~1月まで)	4000冊	4953冊	4714冊				

### 12 来年度に向けての改善方策

- ・授業や家庭学習におけるICT機器の活用方法を研究し、家庭学習と授業とがリンクする指導を行っていく必要がある。そのための授業改善に取り組んでいく。
- ・LHRなどでライフプランについて考える機会を設け、自分の将来のために主体的に学習に取り組む姿勢を育てたい。

**【 総務・運営部 】**

2 現状の分析	○学校行事について、生徒・保護者ともに協力的で、各行事の運営を効率よくかつ厳粛に進めることができた。 ○会議資料の電子化が徹底されており、職員会議の紙媒体資料を減らすことができ、会議も効率よく進められた。
3 学校の抱える課題	・分掌、教科、学年、普通科、音楽科、美術科と連携し、職員の意志疎通を図る必要がある。 ・会議資料電子化に伴い、会議の効率化を図り、データをより利用しやすい形式になった反面、資料の確認が必要である。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 式典・全校集会においてICTの活用を進めるとともに、基本的な倫理観や秩序を重んじる態度を育成する。 (2) 学校運営協議会（ゆめ会議かろう）を通して、本校の教育活動の理解を図り、地域の人たちの意見や要望を受け止め、学校経営に生かす。 (3) 国際交流の機会を生かして、生徒一人一人の視野を広げ、平和的で民主的な社会を実現する人材となるよう意識を高める。 (4) 日本学生支援機構の奨学金制度に加えて、地域や各種団体の奨学金制度の利用推進を図る。 (5) 探究活動を通して、生徒の主体的な学びの育成を図る。 (6) 会議資料および職員必携の電子化を進め、資料をより利用しやすいものにする。 (7) 学校行事、PTA行事などへの保護者の参加率の向上を図り、PTA常任委員会の活動を推進する。

年 度 目 標			年 度 末 評 価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート（保護者・生徒・教員）			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		指標	前年	結果					
総務・運営 部	(1) 早期の準備と、礼法指導等を通して秩序ある式を推進する	保	奨学金等の情報の周知度	*	*	*	情報を周知できている	A	・奨学金等の情報は必要な時期に適切に提供できた。 ・コロナ制限緩和後の式典、全校集会の形態を新たな形として検討する必要がある。  <b>A</b>
	(2) 学校運営協議会（ゆめ会議かろう）の委員に本校の教育方針や生徒の現状を伝え、委員の助言・意見を伺い全職員と共有し学校改善の一助とする。	教	電子化された資料の定着度	93%	98%	98%	メール配信等により速やかに伝達できている。	A	
	(4) 各種奨学金制度の周知を徹底し、利用推進を図る。 (6) データのスリム化を呼びかけ、会議の効率を高める。	教	式典・行事のアンケート結果	*	*	*	・コロナ禍の制限なくなり、その中で、適切に式典などの行事を開催できた。 ・Teams、放送を活用して熱中症に配慮した全校集会を実施できた。 ・学校運営協議会で有意義な助言・意見をいただけた。	A	

12 来年度に向けての改善方策	・情報をより精選して、適度な頻度で提供していきたい。
-----------------	----------------------------

【キャリア支援】

2 現状の分析	<p>▲解説講義などへの参加者が少ない。 ○ハイレベルな模試に挑戦する生徒が増えた。 ○入試対策期間における個別指導を、全校体制で取り組むことが出来た。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学習習慣の確立と生徒の学力向上</li> <li>キャリア教育の推進</li> <li>入試改革に向けた取り組み</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇知的好奇心を発掘し、主体的な学習姿勢を育み、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るとともに、模試等の結果分析を授業改善に結び付ける。 ◇学校での「学び」と自らの将来との接点を認識させることにより、新たな学習課題を発見させ、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする。 ◇「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を図る。</p>

年度目標

年度末(途中)評価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標					8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
		※アンケート(保護者・生徒・教員)			指標	前年				
進路指導部 ◇進路指導	(1) 外部講師による講演会 (2) システム手帳の活用(テストを活用した到達目標の設定) ※ポートフォリオ作成(学修の記録)⇒PDCAサイクルの確立 (3) 「総合的な学習の時間」の活用 ※高校での「学び」と自らの将来の接点の認識 (4) 「支援事業」の活用 ※上位層の伸長・探究学習への取り組み (5) 学びみらいPASS・リクエスト講座の活用 ※「思考力・判断力・表現力」(新入試対応力)の育成	生	ハイレベル模試への受験	1年	15%	14%	17%	・ハイレベル模試に挑戦する生徒の定着。	B	○1年生大学系統別説明会、2年生大学別模擬授業、保護者進路研修会の対面実施ができた。 ▲外部模試解説講義や難関大学説明会の参加者が少なかった。ハイレベル模試へ挑戦する生徒の人数は昨年並み。目標値には遠いが、参加者の学力の到達度は高まっている。 ○各種講演会や模擬授業に対する生徒の評価は好評であった。
			(1・2年全統記述、難関大模試)	2年	50%	28%	16%			
				3年	20%	17%	17%			
		保	学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。	90%	78%	84%	・保護者対象進路冊子の配布 ・保護者進路研修会の対面実施	B		
			生	学校は生徒に様々な(適した)進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。	90%	86%			85%	
		◇国公立大現役合格者(R5入試)	170名	168名	142名	・外部講師による講演会 ①講演会「夢をかなえるコツ」 ②外部模試解説講義の定着 ③名古屋大学オープン授業の実施	B			
◇志望上位国公立4大学現役合格者	80名	70名	65名							
◇国公立難関大現役合格者	20名	14名	16名							

12 来年度に向けての改善方策

- ・進路行事の質の向上から、生徒の進路意識と学力の向上を目指す。
- ・高学力層の生徒のグルーピングから、ハイレベル模試への受験や外部講義の積極的な参加を促し、全体の学力向上を目指す。

【 生徒支援部 】

2 現状の分析	<p>○基本的生活習慣の確立は、保護者との連携も図られ、概ね良好である。5分前登校についても定着されつつある。</p> <p>○交通事故件数は、昨年度より増加した。(20件→25件) 継続的なルールの遵守とマナーアップ指導が必要である。</p> <p>○情報モラルについては、やや改善された。一方で、校内でのスマホの時間外使用やスマホ依存が疑われる生徒が増加傾向にある。</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携が図られ、充実した教育相談活動ができた。また、いじめ事案に対して、迅速な対応ができた。(2件→1件)</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の教育活動全体を通じた交通安全啓発活動を推進する必要がある。目標は交通事故年間20件以下。</li> <li>●ケータイ・スマホの使用方法等について生徒に考えさせ、よりよい使用法を身に付けさせる必要がある。</li> <li>●新しい「服装規定」のもと、制服の着こなしと制服以外での登下校、学校生活が、他者を尊重し品位ある雰囲気創りにつながるよう働きかける。</li> <li>●「時間を守る」という意識の向上と、遅刻のみならず授業規律の見直しを含め、全職員及び保護者とも連携して呼びかける必要がある。</li> <li>●生徒の小さな変化・SOSを見逃さない細やかな生徒観察と、連携した教育相談活動のさらなる充実を図る必要がある。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇基本的生活習慣とモラル・マナーの定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服装における身だしなみや時間(期限)を厳守する習慣を確立し、挨拶、安全マナーなど社会性を身に付けた品位ある生徒の育成を目指す。</li> </ul> <p>◇教育相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する生徒への対応について、生徒理解に努め、相談スキルの向上を図る。</li> </ul>

年 度 目 標						年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果					
生徒指導部 ◇生活指導 ◇教育相談 ◇人権教育	(1) 全職員による指導体制の確立	保	高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導をおこなっている。	90%	77%	76%	A	<p>○基本的には落ち着いた学校生活を維持している。一方安易な遅刻・欠席が多い。</p> <p>○遅刻や欠席について連絡がない生徒に対しては正副担任が速やかに連絡を取り、生徒の所在・安否を確認するよう徹底した。</p> <p>○いじめ事案と同様に教育相談を中心に組織的な対応を必要とされるケースが増えてきた。関係職員が連携して、該当生徒の対応に当たっている。</p> <p>○服装規定の検証と見直しを進めることができた。生徒の意識のみならず職員の指導体制を統一させていきたい。</p>	A	
	(2) MSリーダーズやPTAと連携した交通安全運動									
	(3) 全職員による遅刻数減少の取組及び登校時の声かけ指導	保	生徒の遅刻数	*	2,006	1,480	B			
			挨拶や遅刻防止など、基本生活習慣の育成指導を保護者と連携をとって進めている。	85%	64%	70%				
	(4) 職員研修会(教育層相談、いじめ対応、発達障害等に関するもの)	保	交通事故件数	*	25件	22件	B			
			子どもの安全面や衛生面に配慮し、交通安全、健康管理等の指導を行っている。	90%	79%	74%				
	(5) 人権教育の推進	生	交通安全啓発活動の実施	*	7回	7回	A			
			子どもの悩みについて担任以外の相談窓口を設け、その利用について十分知らせている。	70%	84%	77%				
	悩みごとなどに親切に対応してくれる先生が多い		80%	82%	82%					
		生	いじめや差別のない学校である。	100%	81%	78%	A			

12 来年度に向けての改善方策

- ・ いじめに繋がりがかねない「いじり」や「からかい」や不登校の問題など、一人ひとりの心情に沿ってきめ細やかな支援が必要になってきている。職員間で共通認識を持ち、組織的に対応していきたい。

【 特活支援部 】

2 現状の分析	<p>○コロナの影響がまだ残っているが、社会生活は徐々にコロナ前に戻りつつある。戻りつつあるとはいうものの、コロナがまん延していた時に広がった新しい生活様式も踏まえて、新たな生活スタイルに進みつつある。こういった社会の変化に合わせて、加納高校生としての在り方を模索してこることができた。</p> <p>○校則（服装規定）の見直しが進み、昨年度は生徒会が携帯電話の利用についても基本的な方針を示すことができた。</p> <p>▲学校内だけではなく、社会における加納高校という立ち位置を模索していきたい。</p> <p>▲算数ボランティアなど、人と人が触れ合うボランティア機会が減ってしまった。</p>										
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>With コロナおよびアフターコロナにおける白梅祭等の学校行事の規模の再考と実施期間中の気候対策</li> <li>生徒が「自主自立とは何か」、「個性とは何か」を考え、よりよい学校生活を送るためにはどうしたらよいかを考え続けることができる仕組みづくり</li> <li>学校内の生徒会活動だけでなく、外部に出ていくことのできる活動を戻していく</li> </ul>										
4 今年度の具体的な重点目標	<p>(1) 新校則の適正運用の啓蒙                      (2) 生徒の自主性・主体性の育成                      (3) コロナ禍における行事の実施方法のさらなる工夫</p> <p>(4) 業務分担の見直し                      (5) 部の精選                      (6) 部活動後援会費運用の公平性を考えた内規作り</p>										
年 度 目 標						年 度 末 (途中) 評 価					
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート (保護者・生徒・教員)				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価		
特活支援部 ◇特活支援	<p>(1) 新校則の正しい運用に向けた生徒会活動</p> <p>(2) リーダー（執行部）の育成</p> <p>(3) With コロナ、アフターコロナに向けた行事の工夫</p> <p>(4) 各種業務の見直し</p> <p>(5) 部活動後援会費の運用方法の他校比較</p>	<p>本校の学校行事は、充実している</p>	90%	93%	91%	<p>コロナ以前の状況に完全に戻すのではなく、事業を精査しながら一つ一つ丁寧に実施をした。</p>	A	<p>・白梅祭は、コロナ後ということで、体育館の入場制限を解除して実施した。できるものから、徐々にスクラップ&amp;ビルドをした。来年度はさらに前向きに進めたい。</p>	A		
<p>本校は、部活動が活発である</p>	85%	82%	80%								
<p>本校は、生徒会活動が活発である</p>	75%	72%	68%								
<p>週一回の執行部会における意見交換</p>	*	*	*	週一回以上集まり、活発に実施した。	A	<p>・生徒会執行部は本当によく頑張っているが、その活動が周りに広められていないため広報にも力を入れる。</p>					
<p>定期的な特活支援部会の開催（部内での情報共有）</p>	*	*	*	情報共有はおおむねできている。	B						
<p>事務担当者との連携</p>				ほぼ毎日打ち合わせをしている。	A	<p>・各担当者の裁量権をかなり強化したので継続させる。</p>					
<p>12 来年度に向けての改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白梅祭をさらによりよいものとするために、様々な意見を聴き進めたい。</li> <li>・執行部と生徒の距離をさらに縮める活動を計画していきたい。</li> </ul>											

【保健厚生部】

2 現状の分析	<p>▲健康診断の結果をもとに自らの生活・健康管理を行うことができた。</p> <p>○「警報訓練」をきっかけに学校生活における防災(減災)について考える機会を増やすことができた。</p> <p>▲生徒の防災意識は向上してきたので、家庭・地域の連携のため活動を増やす。</p> <p>○環境整備を目的とした大掃除を柱とした環境整備を、定期的の実施出来るよう年間計画に位置づけた。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の事後指導への意識をさらに高める。</li> <li>生徒総務委員を中心に防災意識を高める活動を実施し、防災・備蓄品の整備をさらに進める。</li> <li>校内各箇所の清掃ポイントを明確にし、不用品の処分など周辺を整理して安全な環境を保つ。</li> <li>新型コロナウイルス感染症含め、様々な感染症予防を心がける</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 健康や安全を客観的に評価し改善する。</li> <li>◇ 事故や災害などに対する、防災意識を高める。</li> <li>◇ 常に校内美化の意識を持ち、清掃等の徹底と生活環境の整備をする。</li> <li>◇ 新型コロナウイルス感染症予防等の対策を立て、実践を行う。</li> </ul>

年 度 目 標			年 度 末 評 価						
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果
保健厚生部	(1) 自らの健康・安全への意識を高める。	保	生徒の安全面や衛生面に考慮し、交通事故や健康管理などの指導をしている。	90%	95%	74%	定期健康診断を基にした健康指導(受診勧告等)	A	<p>○健康診断を受けた生徒が事後受診など健康管理への意識を高めるような指導を工夫する。</p> <p>○コロナ感染対策を踏まえ、他の感染症の流行を最小限に抑えることができた。</p> <p>○在校時の非常変災時への対応については意識が高くなってきた。引き続き、非常変災時への対応ができるようにする。</p> <p>▲日頃から、全校生徒が校内をきれいに保つ意識を持てるようにする。</p>
	(2) 全職員で安全点検し、危険箇所等の早期発見と改善への対応。	保	生徒に地震や台風の場合の対応マニュアルをはっきり示している	100%	85%	96%	非常変災時の対応について学校と家庭の連携。	B	
	(3) 校内での地震対応を生徒に周知し、訓練を繰り返し実施する		訓練による校内の危険や避難等への対応を周知				今年度は、避難を伴う訓練も実施され、総務委員を通じての意識づけも行えた。今後、家庭においても災害に対するより一層の意識向上を図る。	B	
	(4) 変災時に対する備蓄の検討。		災害に対する意識向上と、生徒用備蓄および緊急対応備品を常に確認				予防対策は確実に成果を上げることができた	A	
	(5) 新型コロナウイルス感染症等に対する計画と実践を行う。		新型コロナウイルス感染症への予防対策を実践する。				週3日の掃除となったが、最低限の環境整備はできた	B	
	(6) 日頃から、環境美化に対する意識向上の実践を図る。	生	本校は、清掃が行き届いており校内がきれいである。	65%	68%	72%			

12 来年度に向けての改善方策

- ・感染症対策は、県の方針に従って有効に対策を検討していく感染対策に重点を置く。
- ・防災意識を、学校だけでなく、家庭でも考えられる取り組みを行う。
- ・環境美化に対する意識を、美化委員会を通じて、日常的に行う。